

平成14年度事務事業評価表

課長	担当

担当	市民福祉部	長寿課 養護老人ホーム担当	内線等	8004
----	-------	---------------	-----	------

事業コード		事務事業名	入所者の生活、指導・介助事業
根拠法令等		老人福祉法	A法令

総合計画での位置付け

基本目標

施策名

健康で安心して暮らせるまちづくり	高齢福祉
------------------	------

事務事業の内容

対象	養護老人ホームの
手段	生活の指導や介助事業を行なうことによって
想定する成果	快適で楽しい老後の入所生活ができる環境作りの提供をする。

事業の概要

項目	平成13年度実績	平成14年度実績	平成15年度計画
延入所者数 (毎月入所者×12月)	488人 40人内訳(市内34人) (市外6人)	455人 38人内訳(市内31人) (市外7人)	492人 41人内訳(市内34人) (市外7人)

成果指標

成果指標名	入所充足率
成果指標の説明	延入所者数/延定員(50人)

事業の進捗状況 (一般 会計) (千円)

		平成13年度決算	平成14年度決算	平成15年度予算
成果指標	計画	-	-	82.0%
	実績	81.3%	75.8%	-
成果指標	計画			
	実績			
事業費	事業費	5,857	5,853	6,132
	人件費	50,148	49,578	50,532
	(人数)	6.0	6.0	6.0
	合計	56,005	55,431	56,664
財源内訳	国	14,653	12,666	15,310
	県	479	471	0
	市債	0	0	0
	その他	9,225	9,086	9,554
	一般財源	31,648	33,208	31,800

事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	3	2	定員50名の施設であるが、すでに築32年を経過している居室他の設備等の現状を考えて予算措置は42人で要求している。当初の定員より入所の充足率は低下しているが、高齢化による痴呆身体不自由者の増加で生活介助等日々の生活が快適に暮らせるよう工夫努力してきた。
経済効率性	2	2	国基準の措置費の範囲内で、入所者の生活に必要な費用を効率よく配分した。
事務効率性	2	2	職員は国の「職員配置基準」に基づいているが、入所者の高齢化・病弱化により介助に手間が掛かるようになった。
必要性	2	2	入所の理由の中で経済的困難な高齢者が多くなってきている。国の基準に基づいた職員の配置で運営しているが、生活介助の手間が増加し民間での運営を考えると難しい状況である。今後検討が必要である。
小計	9 / 12 満点中	8 / 12 満点中	
市民参加度	2	2	入所者の高齢化・病弱化により、手間がかかるようになっている。市民のボランティア・慰問者の協力等により、洗濯・清掃・縫い物奉仕で手助けをえている。
合計	11 / 15 満点中	10 / 15 満点中	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	適材適所に人員配備をすることにより、入所者のより充実した介助・生活指導に引き続き努力をしていきたい。
------	---	---	----------------------------------------------------

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

これまでに実施した改善点

- ・寮母と指導員との意思の疎通を図るため、毎月1回寮母・指導員検討会を開き、入所者の処遇を改善してきた。
- ・入所者の高齢化・病弱化に伴い、毎月2回買い物の日を作り利便を図った。

今後改善すべき点

- ・入所者が全体的に高齢化・病弱化しているが、生活、指導・介助を合理的に行ない、現行の人員で対処できるようにしていきたい。
- ・失禁者に対し、プライバシーを守り処置する場所を設けたい。

平成16年度予算に反映する項目

--

組織、人員に関する提言

--

各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載

平成14年度事務事業評価表

課長	担当

担当	市民福祉部	長寿課 養護老人ホーム担当	内線等	8004
----	-------	---------------	-----	------

事業コード		事務事業名	入所者の給食・栄養事業
根拠法令等		老人福祉法	A法令

総合計画での位置付け

基本目標

施策名

健康で安心して暮らせるまちづくり	高齢福祉
------------------	------

事務事業の内容

対象	養護老人ホームの入所者に対し
手段	食事のサービスを提供する事によって
想定する成果	入所者に喜ばれる食事の場を提供する。

事業の概要

項目	平成13年度実績	平成14年度実績	平成15年度計画
1日1人当たり平均単価	903円	993円	998円
国の示している生活費の1/2単価	870円	860円	890円
1日平均入所者数	38人	37人	41人

成果指標

成果指標名	延食数	
成果指標の説明	延食数	

事業の進捗状況 (一般会計) (千円)

		平成13年度決算	平成14年度決算	平成15年度予算
成果指標	計画	-	-	14,965食
	実績	13,936食	13,451食	-
成果指標	計画			
	実績			
事業費	事業費	29,372	29,361	30,752
	人件費	8,358	8,263	8,422
	(人数)	1.0	1.0	1.0
	合計	37,730	37,624	39,174
財源内訳	国	9,872	8,597	10,582
	県	323	319	0
	市債	0	0	0
	その他	6,215	6,167	6,604
	一般財源	21,320	22,541	21,988

事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	施設における生活をできるだけ家庭生活に近づけていくような献立や調理に工夫をこらし、老人の栄養基準量に基づいて食べやすく喜ばれる食事を計画をしてきた。
経済効率性	3	2	平成13年度調理業務を民間委託し、人件費の削減をした。
事務効率性	2	2	集団処遇から個別処遇の対応へと幅を広げて栄養指導をしてきた。
必要性	3	3	入所者の生活は、三度の食事に喜びと安らぎを求めている事を思い、より喜ばれる食事づくりを提供していくために必要である。
小計	10 / 12 満点中	9 / 12 満点中	
市民参加度	1	2	入所者の身元引受人及び、ボランティア教室等と花見の会を通じ、食事に関する生の声を聞いている。
合計	11 / 15 満点中	11 / 15 満点中	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	実務献立が1日3食のため、献立の内容も多様化されてくる又、入所者の高齢化・病弱化に伴い通常の食事が不可能な治療食等も必要となるため入所者一人ひとりの心と体の変化を察知し献立の改善に反映させてきた。
------	---	---	----------------------------------------------------------------------------------------------------

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

これまでに実施した改善点

- ・給食調理業者を委託し、人件費の削減を図った。
- ・調理室の衛生管理の徹底化を図るため、下処理室の増設、網戸の設置をした。
- ・特別治療食（腎臓食・減塩食・カリウム減食）、きざみ食等、献立内容・調理の工夫等を実施するため給食部会を開催し検討・改善をしてきた。

今後改善すべき点

- ・厨房の老朽化で建替えの時期を迎えている。
- ・食事サービスの根元である調理室内の衛生管理を充実するための改善をしていきたい。

平成16年度予算に反映する項目

--

組織、人員に関する提言

--

各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載

平成14年度事務事業評価表

課長	担当

担当	市民福祉部	長寿課 養護老人ホーム	内線等	8004
----	-------	-------------	-----	------

事業コード		事務事業名	施設の管理事業
根拠法令等	老人福祉法		A法令

総合計画での位置付け

基本目標

施策名

健康で安心して暮らせるまちづくり	高齢者福祉
------------------	-------

事務事業の内容

対象	養護老人ホームの
手段	施設の管理や事務事業を行うことによって
想定する成果	快適で楽しい老後の入所生活ができる場の提供をする。

事業の概要

項目	平成13年度実績	平成14年度実績	平成15年度計画
延入所者数 (入退所人員)	488人 (入所1人・退所2人)	455人 (入所2人・退所3人)	492人

成果指標

成果指標名	入所充足率
成果指標の説明	延入所者数/延定員

事業の進捗状況 (一般 会計)

(千円)

		平成13年度決算	平成14年度決算	平成15年度予算
成果指標	計画	-	-	82.0%
	実績	81.3%	75.8%	-
成果指標	計画			
	実績			
事業費	事業費	7,282	7,281	11,057
	人件費	12,537	12,394	4,211
	(人数)	1.5	1.5	0.5
	合計	19,819	19,675	15,268
財源内訳	国	5,186	4,497	4,127
	県	169	167	0
	市債	0	0	0
	その他	3,265	3,225	2,575
	一般財源	11,199	11,786	8,566

事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	施設の老朽化が目立ってきている。大規模な改良修繕が必要であるが、優先順位で必要な修理等を行っている。
経済効率性	2	2	国基準の措置費の範囲内で効率よく予算配分し、必要不可欠な修理等を行った。
事務効率性	2	2	職員は国の「職員配置基準」に基づき配置しているが、事務は複雑化傾向にあり多忙となってきている。
必要性	1	1	管理運営は民間でも可能である。今後、検討が必要と考える。（東三河では豊川市を除き公立である）
小計	7 / 12 満点中	7 / 12 満点中	
市民参加度	1	2	慰問・ボランティア・奉仕に来てくれる人から、生の声を聞いている。
合計	8 / 15 満点中	9 / 15 満点中	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	養護老人ホームは昭和46年開所（32年経過）し老朽化が目立ってきており、建替えの時期をむかえている。今後改築するにあたり、社会福祉法人等での設置・管理を視野にいれて検討していかなければと考える。
------	---	---	---------------------------------------------------------------------------------------------------

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

これまでに実施した改善点

- ・施設が狭いので、中庭にテラスを設置（テレビを置く）し入所者が楽しめるようにした。
- ・旧常直室を改良修理し「娯楽室」として入所者が気楽に使用できるようにした。
- ・入所者の転倒や骨折防止のため、必要箇所にスロープ、手摺を取り付けた。

今後改善すべき点

- ・入所者の高齢化・病弱化に対応するため、トイレの和室便器を洋便器に改造修理するのを始め老朽化に伴う必要な修理等を順次行っていく。

平成16年度予算に反映する項目

--

組織、人員に関する提言

--

各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載

平成14年度事務事業評価表

課長	担当

担当	市民福祉部	長寿課 養護老人ホーム担当	内線等	8004
----	-------	---------------	-----	------

事業コード		事務事業名	入所者の看護・保健衛生事業
根拠法令等		老人福祉法	A法令

総合計画での位置付け

基本目標

施策名

健康で安心して暮らせるまちづくり	高齢福祉
------------------	------

事務事業の内容

対象	養護老人ホームの入所者に対し
手段	健康を損なわないよう、過ごしやすい生活環境を整えていくことにより
想定する成果	一人ひとりの体力を把握し、個人にあった健康づくり、衛生管理面を習得させる。

事業の概要

項目	平成13年度実績	平成14年度実績	平成15年度計画
通院者数	1,220人	1,320人	1,370人
薬の処理数	1,219人	1,203人	1,200人

成果指標

成果指標名	延通院人員	
成果指標の説明	延通院人員	

事業の進捗状況 (一般会計) (千円)

		平成13年度決算	平成14年度決算	平成15年度予算
成果指標	計画	-	-	1,370人
	実績	1,220人	1,320人	-
成果指標	計画			
	実績			
事業費	事業費	6,134	6,129	6,782
	人件費	4,179	4,132	4,211
	(人数)	0.5	0.5	0.5
	合計	10,313	10,261	10,993
財源内訳	国	2,700	2,344	2,969
	県	88	87	0
	市債	0	0	0
	その他	1,699	1,681	1,853
	一般財源	5,826	6,149	6,171

事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	入所者の健康状態を把握し、病弱者の発見に努め衛生管理面を徹底し保健予防に努めた。
経済効率性	2	2	ホーム内の環境づくりは入所者自ら参加をし、それらにかかる経費を削減し、支出を最小限に努めた。
事務効率性	2	2	看護師の業務を把握し、介助の手助けをスムーズに運ぶことができた。
必要性	1	2	入所者は高齢化・病弱化しているため、看護・介助する手間が増加してきているが、運営は民営でも可能である。今後、検討が必要である。
小計	7 / 12 満点中	8 / 12 満点中	
市民参加度	1	2	ホーム内の清掃奉仕・環境づくりに、ボランティア慰問者に協力を得ている。
合計	8 / 15 満点中	10 / 15 満点中	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	高齢者の疾病等を早く察知し、各種の病気等適切な予防や対策を看護師の基に、いっそうの注意を払うよう努めてきた。
------	---	---	--------------------------------------------------------

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

これまでに実施した改善点

・高齢化による痴呆・身体不自由な高齢者が増加してきているため、機能回復器具の設置等、快適な生活ができるための改善をしてきた。

今後改善すべき点

・段差のない居室、排尿時の洋便座の設置、入所者の疾病の早期発見（健康診断）、保健衛生事業に係る器具等の購入に努めていきたい。

平成16年度予算に反映する項目

--

組織、人員に関する提言

・平成13年度から看護師は非常勤職員であり、緊急時の対応や処置に支障をきたす場合が多い。

各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載